

ボランティア活動の運営の円滑化について

15班

北谷内結月 大根怜真 山本明日翔 田中康貴 濱田康佑 金田夏苗

背景

Xの馳知事の「能登に来ないで」というXの投稿

↓
ボランティアの人の自粛

被災地とボランティアのコミュニケーションを円滑にしたい

現状

〈被災地の声〉

- ・賞味期限が短いものが大量に送られてくる
- ・足りない物資を伝える手段がない
- ・物資の偏りが激しい

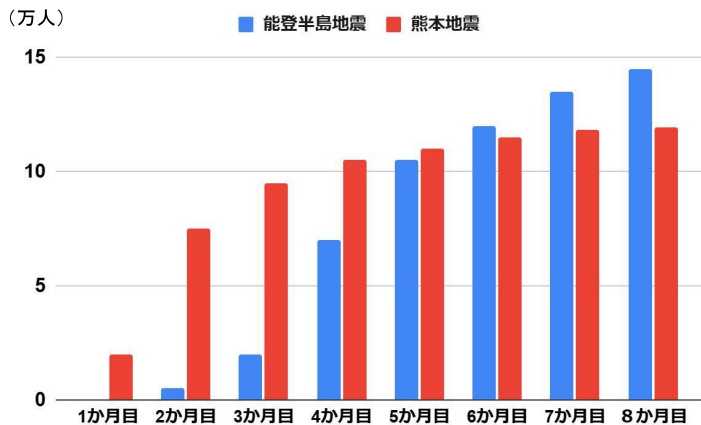


図1 熊本地震と能登半島地震とのボランティアの人数の違い

熊本地震と比べ、ボランティアの数が少ない
→ボランティアが必要だということが伝わっていない



「今」を伝える手段が必要！！！！

提案

「Uber Help」(仮)

- ①被災者に「要望」を書き込んでもらう
- ②「要望」にあった人手・物資を用意する
- ③被災地にそれらを届ける

○メリット

- ・気軽に要請できる
- ・ボランティアの方々にニーズが伝わる

○デメリット

- ・いたずらだと思われる
- ⇒アプリ情報を公開し、公的機関と連携



図2 仮ロゴ

取り組み

- ①アプリのプログラミングをPythonで作った
- ②アプリの画面の例を作った(フレームワーク)



図3 フレームワーク

```
[30] #要望の把握と確認
def nintai():
    youbou = int(input("必要なのは人手(0)ですか？物資(1)ですか？"))
    print(youbou)

    if youbou == 0:
        nintai_hito()
    else:
        nintai_bussi()

def nintai_hito():
    mokuteki = input("その人手はどのような目的ですか？")
    print(f"目的: {mokuteki}")
    # ここでさらに質問を続けたいなら、さらにinputを書く
    jikan = input("人手が到着するまでのくらの時間で来てほしいですか？")
    print(f"必要時間: {jikan}")

def nintai_bussi():
    busshi = input("どのような物資が欲しいですか？")
    print(f"物資: {busshi}")
    # さらに質問を続ける
    suuryou = input("どのくらの量が必要ですか？")
    print(f"必要量: {suuryou}")

# 最初にこの関数を呼び出す
nintai()
```

図4 アプリのプログラミング

連携

「特定非営利活動法人団体国際ボランティア学生協会」の方にアプリを運営する際の注意点や、ターゲットの一人であるお年寄りに事前のスマホ講習の必要性などのアドバイスを頂いた。

今後の展望

物資の偏りに困ったという意見があったため、避難所間でも共有できるように周知する方法を考える

引用 参考文献

https://www.google.com/url?sa=i&url=https%3A%2F%2F2hj.org%2Fnews_press%2F6399%2F&psig=AOvVaw3yZ6p8IR_5qZCEXOQpF7V_&ust=1748061921801000&source=images&cd=vfe&opi=89978449&ved=0CBcQjhxqFwoTCMD0n6zkuJ0DFQAAAAAdAAAAABAL